

■ 書 評 ■

●学際的研究で古地震を正す

萩原尊禮編著『続古地震—実像と虚像』

石橋克彦

わが国の長年の歴史地震研究の成果は、『理科年表』の地震年代表にコンパクトにまとめられ、広範な人々に活用されている。しかし、観測データの取り扱いには厳密なはずの地震学者も、相手が歴史地震になると、適切なフィルタ（史料の弁別）をかけずに収録したS/N比の悪いデータ（玉石混淆の地震史料集）を、ノイズの除去作業（史料批判）をしないで解析し、ずいぶん誤りを犯してきた。

この傾向を改め、間違った歴史地震像を正そうと、地震・日本史・活断層・地震工学のベテランが、最近、見

事な学際共同研究を展開している。それが、本書を著した「古地震研究会」の諸氏（編者のほか、藤田和夫・山本武夫・松田時彦・大長昭雄）である。

編者は、『理科年表』の表について、一個人の見解が権威主義的に通用する時代は去ったとして、多くの人達の研究成果を十分検討したうえで、時期をみて大方が納得するように改訂するのがよいと説いている。本書は、その考えにたって、前著『古地震』（東京大学出版会、1982）につづき、彼らの研究成果を世に問うものである。

したがって、近畿地方を中心として、古代11個、中世18個、近世3個の地震を再検討した本書の主要部分（第Ⅱ部「各論」）は、かなり専門的である。しかし、漢文の史料や社寺の縁起などを多少辛抱して読み進むと、例えば734年の畿内地震が生駒断層系の活動だったという第6章のように、鮮やかな推論を堪能できる。1833年庄内沖地震を扱った第9章では、相田勇氏の津波の数値実験による波源断層モデルの呈示もあって、近世後期の大地震ともなると、定量的にもかなり説得力のある地震像が描けることに感心させられる。綿密な考証の結果はつきりしなかった地震も少なくはないが、問題点や限界を明確にしたことが非常に重要であろう。東海地震に関連してよく引用される熊野灘の地震など、7個が虚構と結論されたのも注目される。ただし、もう少し広範囲の読者に読みやすくする配慮（記述の刈り込み、ルビ、見やすい地図、地名の的確な図示など）があってもよかつたのではなからうか。

個々の議論には、疑問や反論がないわけではない。例えば、地震史料が六国史中の一文だけというような古代の地震は、推論が精緻になればなるほど、古代史的興味は別として、史料解釈の一意性、最寄りの活断層を起震断層とする判断の妥当性、結果の地震学的意義などについて、首をかしげたくなるものもある。六国史には、ある程度以上の大地震はもれなく、またその被害はまんべんなく記録されているものかどうか、もっと説明を聞きたい気がする。

史実を考証したうえで特定の活断層に比定するという本書の基本的な方法論は、震源が非常に浅いという大前提が正しい限り、もちろんそれ以外のやり方はない。ただし、データが不完全な古い地震の場合、排除的、限定的な厳密な議論がかえって真実を隠してしまうかもしれないことに、絶えず注意すべきだろう。古地震を研究する意義の一つは、観測時間の窓を広げて、短い器械観測期間中には起こったことのないような地震現象を探ることだから、常に視野と発想を広く保っていることが重要である。鳴門の地変に関する史料の批判が示されないまま京阪地域に限定された1596年の地震など、別の可能性はないのだろうか。また、一口に活断層というが、基盤

を切る近畿地方の活断層とトラフ付加体内の南関東の活断層を、同列の起震断層として扱ってよいかどうかも問題だと思われる。

しかし、疑問点や反対意見は本書の価値を下げるものではない。むしろ、活発な議論が巻き起こることこそ著者達の望むところであろう。

本書は、簡単な結果しか掲げられていない『理科年表』の地震年代表の解説書ともいえる。その表を近代的観測事実と同様に信じている地震学者や防災関係者が非常に多いが、本書を読んで内実を知れば、それが実像には程遠いことと、実像に至る作業が恐ろしくシンドイものであることに驚かされるだろう。『理科年表』の表は1989年版で独自に大改訂が行われ（本書の議論は1987年版に対応）、本書の指摘がすでにある程度正されているが、今回示された問題点がそのままになっている部分も多い。その意味でも、『理科年表』の表をよく使う方々や日本の地震活動史に関心をもつ方々すべてに、目を通して頂きたい本である。

なお、第Ⅰ部「概論」に、『理科年表』の表の変遷、地震史料の特質、全国の活断層と歴史地震の分布、近畿地方の活断層の起源、が解説されているが、どれも興味深く、たいへん参考になる。また第Ⅲ部「史料編」には新史料が掲載されている。

〈東京大学出版会、1989年3月25日初版、A5判、434頁、7600円〉

【いしばし かつひこ 建設省建築研究所国際地震工学部応用地震学室長】

●新刊紹介

佐藤良輔 編著 [阿部勝征・岡田義光・島崎邦彦・鈴木保典]
日本の地震断層パラメーター・ハンドブック
鹿島出版会、1989年3月発行、菊判、390頁、15000円。

日本周辺に発生した92地震の断層パラメーターを、詳細に、しかもコンパクトにまとめた資料と解説。

物理探査学会 編

図解・物理探査

物理探査学会、1989年4月発行、B5判、230頁、非売品。

手法編、応用編、理論編にわけ、カラーで図解した物理探査の入門的解説書。学会40周年記念出版。

大矢雅彦・木下武雄・若松加寿江・鳥羽徳太郎・石井弓夫 著
自然を知る・防ぐ

古今書院、A5変形判、236頁、3400円。

早稲田大学教育学部の「自然災害」をテーマにした総合講座の内容がまとめられている。